

1日 水曜

列王 I



12:1 レハブアムはシェケムに行った。全イスラエルが彼を王とするために、シェケムに来ていたからである。

12:2 ネバテの子ヤロブアムは、まだソロモン王の顔を避けてエジプトに逃れていた間に、レハブアムのことを聞いた。そのとき、ヤロブアムはエジプトに住んでいた。

12:3 人々は使者を遣わして、彼を呼び寄せた。ヤロブアムは、イスラエルの全会衆とともにレハブアムのところに来て言った。

12:4 「あなたの父上は、私たちのくびきを重くしました。今、あなたは、父上が私たちに負わせた過酷な労働と重いくびきを軽くしてください。そうすれば、私たちはあなたに仕えます。」

12:5 するとレハブアムは彼らに、「行け。三日たったなら私のところに戻って来るがよい」と言った。そこで民は出て行った。

12:6 レハブアム王は、父ソロモンが生きている間ソロモンに仕えていた長老たちに、「この民にどう返答したらよいと思うか」と相談した。

12:7 彼らは王に答えた。「今日、もしあなたがこの民のしもべとなって彼らに仕え、彼らに答えて親切なことばをかけてやるなら、彼らはいつまでも、あなたのしもべとなるでしょう。」

12:8 しかし、王はこの長老たちが与えた助言を退け、自分とともに育ち、自分に仕えている若者たちにこう相談した。

12:9 「この民に何と返答したらよいと思うか。私に『あなたの父上が私たちに負わせたくびきを軽くしてください』と言ってきたのだ

が。」

12:10 彼とともに育った若者たちは答えた。

「『あなたの父上は私たちのくびきを重くしました。けれども、あなたはそれを軽くしてください』と言ってきたこの民には、こう答えたらよいでしょう。彼らにこう言いなさい。『私の小指は父の腰よりも太い。』」

12:11 私の父がおまえたちに重いくびきを負わせたのであれば、私はおまえたちのくびきをもっと重くする。私の父がおまえたちをむちで懲らしめたのであれば、私はサソリでおまえたちを懲らしめる』と。」

事業家としては成功しても、信仰的には神から離れてしまったソロモンのもとで、その国は見えないところで混乱の兆しがありました。権力をものにしようとする者たちと、それに追随する者たちです。

それでもソロモンが神に従っているなら、憐れみもあって解決をいただけたかもしれません。しかし今は、主は始めの約束と警告の通りにソロモンから離れてしまわれたのです。

レハブアムは父ダビデの権威を表面的にしか見ず、また権威というものを民への圧制と誤解しました。そしてソロモンの家臣である長老たちの進言を無視したのです。

恵を次世代まで残すには、何よりも主への服従を見せることが必要です。今は良くても、近い将来に混乱の要因はいっぱいあります。ソロモンはその点で失敗しました。このことを戒めとして受け止めましょう。次世代、後輩、子孫に信仰を残して、恵を渡しましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

